

令和3年度第1回東北森林管理局国有林材供給調整検討委員会（概要）

- 1 開催日時 令和3年6月10日(木) 15:00～17:00
- 2 場 所 東北森林管理局 2階 大会議室
- 3 出席者 高田委員、黒瀧委員、小野寺委員、守屋委員、大坂委員、
佐々木委員、安部委員、小野寺代理
- 4 検討結果 外材の不足及び高騰による国産材への代替需要により、管内の原木及び製品に不足感があり、価格も強含んでいる。今後も当面はこの状況が続くと予想されるが、地域や業界によって温度差がみられ、先行きの不透明感は強い状況となっている。以上の状況を踏まえ、国有林には安定した原木供給を行いつつも、引き続き原木供給と製材品の需要動向を注視し、原木の供給と調整を機動的に発揮できる体制を継続することとされたい。
- 5 主な意見
 - (1) 原木の出材量は増加傾向にあるが、工場での消費量も増加しており、製品も需要に供給が追いついておらず、製品、原木ともに強含んでいる。すでに虫害が発生し始めており、造林事業等も始まることから、製材用原木の出材量は減少する見込みであり、当面原木や製品の引き合いの強さや価格の強含みは続くと予想される。
 - (2) いくつかの大型工場では、当面必要とする原木在庫を持ち、すでに増産対応をしていることから、これ以上の増産は難しい状況にある。また、中小の工場では人手や設備の不足から、急な増産は困難なところもみられる。
 - (3) 製品市場のせりでは急激に価格が上昇しており、地元工務店等に材を卸す材木屋等は手が出せず、製品が業者にいきわたらなくなっている。製品不足や高騰を受けて工務店では営業を自粛したり、プレカット工場が減産するなどの動きも見られ、着工数の減少が懸念される。
 - (4) 輸出に関しては中国への原木及びアメリカへのフェンス材とも引き続き引き合いが強く、価格も強含んでおり、継続的に実施されている。その一方で、国内需要のひっ迫を受けて、輸出に向けた動きを見合わせる動きも見られる。
 - (5) 現状では原木の安定確保がまず何よりも重要であることから、国有林にはすでに越材の早期販売や立木販売の前倒し等、適時の対応をいただいているが、今後も引き続き早期出材や原木の安定供給に取り組んでほしい。一方でこのウッドショックと呼ばれる木材不足及び価格高騰がいつ、どこまで続くかは不透明であることから、昨年度同様に需給状況に応じた機動的な対応を継続していただきたい。